

## 5 入学者選抜方法の検証

### 1) 入試問題の検証

(B群:各年の入試問題を検証する仕組みの導入状況)

**【現状の説明】** 適正な選抜が行われるためには入試問題の質が保証されなければならない。そのため  
に本学では入試改革の一環として8年前から入試問題の良問化の取り組みを始めた。

7年前からは、外部の機関を使って一部の入試問題の評価を行っている。問題用紙と解答及び各問の正答率を元に、問題の出題範囲、難易度、バランスなどをチェックし、「診断書」の提出を受けている。「診断書」は項目ごとにA B C Dの4段階で評価、各項目にコメントが入る形式である。この結果を入試作成委員に戻し、翌年度の改善に役立てている。外部機関による総合的な評価はAまたはBで安定してきており、外部評価が入試問題の良問化に生かされている。

2006年度入試において、実施1ヶ月後に採点上のミスが発覚した。本件は直ちに、内部調査を実施し、実態と善後策を監督官庁に報告するとともにホームページにて公表し、また該当者には連絡した。内容は単純な採点ミスであったが、単純なミス故に、再発防止の対策を定め、実施に移している。

**【点検・評価】** 一般入試において、受験者の多い2科目（英語・国語）のみではあるが、入試問題の  
**【課題・方策】** 外部評価を実施していることは評価できる。

小規模な大学で、科目毎の出題者が十分に確保できない本学において、入試問題の検証や印刷・校正等の誤りを皆無にするために、継続的にかつ、多大の努力を必要とする。チェックシステムそのものを絶えず検証するとともに、システムが正しく機能しているかの監視をおこない、再発を防止する必要がある。

### 2) 入試について学外からの意見聴取を行う仕組み

(C群:入学者選抜方法の適切性について、学外関係者などから意見聴取を行う仕組みの導入状況)

**【現状の説明】** 本学は、学校法人聖学院に属する一教育機関であり、法人全体で広報会議を月に一回開いている。その目的は、本法人内の全教育機関における入試広報戦略を考えるためであり、その会議では入学者選抜方法についても話し合われる。本学にとっては、本学で行う入学者選抜の方法や、その結果を報告し、法人内諸学校からその適切性について意見を聴取する機会としている。

広報担当者は、受験予備校・塾・受験雑誌等の受験産業関係者から発信される受験に関する全国的趨勢についての情報を察知するように努力している。さらに、本学では、高校の進路関係者に対して年に1、2度、大学説明会を実施しているが、その際に、高校生の大学受験動向、本学の入学者選抜の方法と前年度の入試結果について情報提供するとともに、意見聴取を行っている。

## 第4章 学生の受け入れ

**【点検・評価】** 本学の入学者選抜方法は、こうした意見聴取の結果であり、高校の進路関係者はもとより社会的にも納得される公平性をもち、なおかつ高校生の大学受験動向を踏まえた妥当なものとなっている。大学全入時代を間近に控え、受験動向が毎年のように大きく変わる現在、本学としては、さらに高校の進路関係者に対する意見聴取をする必要があることは言うまでもない。

### 6 アドミッションズ・オフィス入試

#### 1) アドミッションズ・オフィス入試

(C群:アドミッションズ・オフィス入試を実施している場合における、その実施の適切性)

**【現状の説明】** 本学では、1999年度に行われた自己推薦入試Bをもとにして、その翌年からAO入試(アドミッションズ・オフィス入試)を始めている。AO入試を導入した大学としては初期に属しており、高校では批判の多いAO入試を本学独自のものとして発展させ、聖学院大学のAO入試として認知されるまでにしてきた。

推薦入試においては、受験生の高等学校における成績及び生活態度をもとにして入試が行われる。また、一般入試は受験生の学力を問う入試と位置づけられる。しかし、近年、高校生の学力低下が問題にされ、さらに授業の受講態度、あるいは勉強の仕方そのものに問題があると思われる例も散見される。したがって、資質的にはいいものを持っていながら、高校生活においては、その資質を開花させることなく終わるケースが多く見られるのではないかとこの予想にたち、勉学姿勢を身につける、大学での授業に対応できるように準備する意味で、本学では「AO入試(アドミッションズ・オフィス入試)」を行っている。

本学のAO入試は、オープンキャンパス開催時に行われる事前面談から、エントリーカードをもとに行われるA面談、そしてA面談終了時に出されるレポート課題をもとに行われるB面談と、少なくとも3回の面談を行うため、最低で1ヶ月半ほどかかる。したがって、本学を第一志望とすることはもちろんのこと、勉学意欲なくしては続かないものとなっている。さらに、大学の雰囲気を感じることができ、教職員との緊密な関係を築くことができるため、入学当初から積極的に授業等において参加できるメリットがあると考えられる。その結果、AO入試を早くから志望して、合格を勝ち取るものには、各学科のリーダーシップをとる学生が多く見られることも事実である。

本学はAO入試を重視している。本学の入試全般におけるAO入試の位置づけ、および各学部学科別の取り組みについては、学生募集方法、入学者選抜方法(p.155)および入学者受け入れ方針等(p.152)の項で詳述した。

**【点検・評価】** AO入試は、ともすれば入学者の早期確保を目的とした安易な入試に流れやすい傾向  
**【課題・方策】**